



神奈川県東ロータリークラブ

KANAGAWA EAST ROTARY CLUB

2015-2016年度 第21週報 No. 1910 2015年(平成27年)12月4日 第1910回 例会記録 12月11日発行

本日〈12月11日〉のプログラム

- ◆ 齊 唱 「我等の生業」
- ◆ 献 立 ローストビーフ
- ◆ 卓 話 「食品添加物」

栄養士 田辺 美弥 様
(紹介者 西山 潔 会員)

〈〈本日のBGM〉〉
アルバム「スウィング・スウィング・スウィング」より



PHOTO 小池将夫会員

司 会 植田 清司 直前幹事

点 鐘 江森 国一 会長

齊 唱 「君が代」 「奉仕の理想」

四つのテスト 山本 芳弘 職業奉仕委員長
(第1例会のみ)

ゲスト紹介

中里也寸志 様 (ゲストスピーカー)

年次総会

クラブ細則第1条及び第5条の規定に基づき、年次総会が開催され、次年度理事・役員が出席会員全員の賛同により、承認された。

理事・役員

会 長	植田 清司
直前会長	江森 国一
会長エレクト	矢野 修二
副 会 長	西山 潔
副 会 長	伊東 英紀
幹 事	小山 市康
会 計	白井 康夫

理 事

職業奉仕委員長	横溝 亘
社会奉仕委員長	山本 芳弘
青少年奉仕委員長	赤堀 和人
国際奉仕委員長	友添 辰哉
戦略計画委員長	渡邊 淳

2015-2016年度 RI会長 K.R. “ラビ” ラビンドラン



世界へのプレゼントになろう

第2590地区 ガバナー 箕田 敏彦

会 長	江 森 国 一	会 計	渡 邊 淳
会長エレクト	植 田 清 司	副 会 計	白 井 康 夫
副 会 長	矢 野 修 二	S A A 長	井 章
副 会 長	加 藤 仁 昭	副 S A A	白 鳥 厚 夫
幹 事	朝 日 達 夫	副 S A A	澁 谷 高 弘
副 幹 事	小 山 市 康	クラブ会報	田 中 龍 太 郎

例会日 毎週金曜日 0:30 ~ 1:30 PM (第5金曜日 6:00 PM)
例会場 ホテルキャメロットジャパン
URL <http://www.kanagawahigashi.com/>
E-mail kerc@beach.ocn.ne.jp

事務局 ホテルキャメロットジャパン内
 〒220-0004 横浜市西区北幸 1-11-3
 TEL: 045-314-3900 FAX: 045-314-3555
創立記念日 昭和51年5月29日

誕生日祝

加藤 仁昭 会員 (12月5日)
 鴻 義久 会員 (12月10日)



会長報告

江森 国一 会長

- ・先日の地区大会のお礼状が箕田敏彦ガバナーより届いておりますのでご報告致します。

幹事報告

朝日 達夫 幹事

- ・次週、例会終了後に12月度定例理事会を開催致します。

◎例会変更のお知らせ

* 神奈川ロータリークラブ

12月28日(月) 休会
 平成28年1月4日(月) 休会

* 横浜港北ロータリークラブ

12月17日(木) 夜間例会
 12月24日(木) 休会
 12月31日(木) 休会

* 横浜鶴見北ロータリークラブ

12月24日(木) 夜間例会
 12月31日(木) 休会
 平成28年1月7日(木) 休会
 1月14日(木) 夜間例会

* 横浜鶴見西ロータリークラブ

12月30日(水) 休会
 平成28年1月13日(水) 鶴見3RC合同賀詞交歓会
 点鐘 12:30
 1月20日(水) 移動例会

* 横浜保土ヶ谷ロータリークラブ

12月15日(火) 夜間例会
 12月29日(火) 休会
 平成28年1月5日(火) 休会

委員会報告

雑誌委員会 委員 竹山 洋

縦組み9ページ“わがまちそしてロータリー”、今月は松本市です。私は“わがまち”を読んでいきますと、本当にその地方に行った気になり、各地のロータリー活動がその町の地域に密着し、特徴を表していると思います。

次に、9ページ“フレンドシッププラザ”の中の「ロータリーの友」賛歌です。これを読みますと、やはりロータリーは参加しなければならない！そして『友』へに投稿を是非よろしくお願い致します。

横組み30ページ“世界のロータリーニュース”、こちらでは世界のロータリー活動が地域ごとにわかりやすく出ていました。

出席報告

中野 真理 出席委員長

会員総数	53名	(31+22)名	
出席会員数	41名	(26+15)名	
出席率	89.13%		
ゲスト	1名	ビジター	0名
前回補正後	86.36%	前々回補正後	91.49%

スマイルボックス

澁谷 高弘 副SAA

鴻 義久会員 誕生祝い、ありがとうございます。

加藤仁昭君 誕生祝い、ありがとうございます。67回目です。

江森国一君 カレンダーも残り1枚ですね。会員増強も頑張りましょう。

富居利貞君 ご無沙汰しております。

山本 登君 本日、早退致します。

西山 潔君 本日の卓話、よろしく願い致します。

横溝 亘君 本日、所用にて早退させて頂きます。

茂木知子さん ～体内年齢と体外年齢～体内年齢が40代と自慢しあっていた植田会員と小山会員。では、体外年齢は……。体外年齢とは男性のみの年齢です。哺乳類では、オスの生殖器は体内にないので、この機能の指数が体外年齢です。お二人は体外年齢も40代でしょうか……。

友添辰哉君 ①山田地区RYLA委員長、青少年奉仕RYLA委員会お疲れ様です。RYLA地区委員会は2/20、2/21開催予定です。②本日、例会終了後に3Fキングアーサーにて親睦活動委員会を開催します。テーマは“年忘れ家族会について”です。親睦活動委員の皆様、よろしくお祈りします。

澁谷高弘君 師走らしくなってきました。皆さん、もう少し頑張りましょう。

12月4日	10件	33,000円
本年度累計		1,002,413円

「芸術文化財団のファンドレイジング ～神奈川芸術文化財団の取組み～」

神奈川芸術文化財団 広報営業課 中里也寸志 様
(紹介者 西山 潔 会員)



公益財団法人神奈川芸術文化財団は、神奈川県内の文化施設である神奈川県民ホール、神奈川芸術劇場、神奈川県立音楽堂を管理運営し、併せて芸術文化の創造と普及を目的に活動し神奈川県民の皆様に身近で質の高い芸術鑑賞の機会を提供し、神奈川の地から新たな芸術文化を創造・発信をしています。

神奈川県民ホールはじめ、弊財団が管理運営している3館は、県民の芸術鑑賞の場として、文化活動の発表の場として神奈川の芸術文化の振興を担ってきました。

神奈川県の事業として上演する弊財団の「自主公演」は、商業ベースで成り立っている公演ではなく、そのため不採算性をともなう公演が多く、公演実施においてこの不採算を補う「ファンドレイジング」がとても重要な位置を占めています。

ファンドレイジング (Fundraising) とは直訳すれば「資金調達」でNPO (非営利団体) が活動のための資金を、個人、法人、政府などから集める行為の総称です。NPOの資金源には、寄付金、会費、助成金、補助金、事業収入、融資の5つがあり、使途の自由度が高く、団体への支援の意思が込められた「寄付」「会費」は重要なものです。

「日本には欧米に比べて寄付文化がない」という声を聞きますが、東日本大震災関連の寄付では総額6千億円で日本人の8割近い人が寄付をしています。このことは日本には寄付の土壌があること表しています。寄付集めの方法は多岐にわたり、インターネットを利用した寄付が急速に広まっています。しかしながら、福祉・環境など「命」に直接かかわり、緊急性がある支援には皆さんの目が向きますが、「芸術文化」に支援をする「芸術文化」のファンドレイジングについては世間の関心が薄い状況です。「芸術文化」のファンドレイジングが重要だと思われてきたのは、バブル崩壊後、日本経済が衰退し、人々の価値観が「物の豊かさ」から「心の豊かさ」にシフトし始めた時点で、近年では東日本大震災以後、それが顕著になりました。しかし、最近ではその傾向も減少しつつあるように思えます。

弊財団はファンドレイジングをすることにより、チケット料金の価格引き下げが可能になり、よりチケットの価格を手の届く範囲に抑えることができ、結果、多くの方が気軽に、公演を鑑賞できる機会が広がることとなります。また、今後東京オリ

ンピックを見据えた文化事業に計画的に取り組める経済基盤が確立し、地域の活性化につながる活動が可能になると思います。景気の影響を受け、芸術を取り巻く環境は厳しく、また、創造的な舞台芸術は不採算事業で、入場料収入だけでは事業費が賄えない状態です。

今後も継続的に自主事業を実施するためには安定的な財源確保が必要不可欠です。神奈川独自の地域性、発信性と国際的視点を備えた、質の高い芸術作品を提供することが可能になるファンドレイジングは単なる資金集めの手段ではなく、支援者の方には「芸術文化」の素晴らしさと、その課題を共感していただくことにより、多くの地元の企業・個人と「芸術文化」を根底にした力強い信頼関係を築き、神奈川から誇りをもって世界へ向けて「文化の資産」を発信し続ける力の礎になります。

今後は、是非、神奈川の「芸術文化」の支援に関心を持っていただければ幸いです。

ロータリーニュース

チュラロンコーン大学の平和センターが10周年

各地で平和の推進に取り組む専門家を養成するロータリー平和センター。世界に6カ所ある平和センターの中でも、チュラロンコーン大学 (タイ) の平和センターは、すでに平和関連の実務経験のある人たちが専門課程の修了証を取得できるユニークな存在です。教授陣からだけでなくほかの学生からも学ぶことを重視しているこの平和センターは、今年で10周年を迎え、これまでに69カ国、355人の平和フェローを輩出しました。

同平和センターのプログラムの特徴について、副ディレクターであるジェン・ワイドマンさんは次のように説明します。

「重点は2つあり、1つが仲裁の段階、理論分析などといった学術的スキルを学ぶこと。もう1つが専門家として変革を遂げることです。さまざまな実務経験を持つ人たちが3カ月間共に学び、質問や討論を通じて、自分がこれまで信じてきたことを一つひとつ徹底的に見直し、考えてもらいます。中には修了までに、まったく見方が変わる人もいます」

常に変化していくカリキュラムを指導する教授陣は、タイ内外から集まっています。フェローは、タイ国内で1回、さらに国外にある紛争後の地域で1回の実地研修を通じて、それまで学んだことを応用します。

米国のボビー・アンダーソンさんは、チュラロンコーン大学の2010年平和フェローの一人です。

その頃、インドネシアで「フリーダムファイター」だった人たちの社会復帰を支援していたアンダーソンさんは、この修了証プログラムによって、自分の仕事を見直し、日常業務を離れた幅広い観点から、平和と紛争解決を考えることができたと言います。

「同じような仕事に携わっている人たちと刺激し合い、さらにネパールでの実地研修では、武装解除、社会復帰、和合に参

加できたのは素晴らしい経験でしたし、そこで学んだことは、今の仕事にも生かされています」

2012年にこの平和センターで学んだカナダのジェニファー・ジェイコブさんは、グループ演習とほかの学生との対話によって、自分の仕事に対する見方が変わったと言います。

「毎日一緒にいると、自然に連帯感が生まれてきます。平和センターでは、経験の一つ一つが学びの機会でした」

カンボジアのミース・サバスさんは、2007年にチュラロンコーンの平和センタープログラムを修了して以来、母国で元クメールルージュ派と反クメールルージュ派の協力関係を促進するために、研修と対話の機会を提供する団体を創設しました。カンボジアの内戦が終わったのは35年以上前ですが、グループ間の不信感は根強く残っています。

「いろいろな背景の人たちに参加してもらい、それぞれ自分の体験と認識や、ほかのグループに対する見方を率直に話し合ってもらうことで、これまでになかったつながりができる」と述べます。



実地研修で平和構築戦略について話し合う、チュラロンコーン大学（タイ）のロータリー平和フェローたち

おなかの子をエイズから守る — リベリアでの職業研修チーム —

2014年、リベリア国内でのエイズ死亡者数は約2,000人に上り、人口430万人のうち33,000人がエイズ感染者でした（国連調べ）。

また、HIVの母子感染により、1歳の誕生日を祝うことができないケースも多くあります。

この状況を改善するため、首都モンロビアと米国カリフォルニアのロータリークラブは、2012年以来、HIV/エイズの医療改善を目的とする職業研修チーム（VTT）*を実施してきました。医療専門家が派遣され、現地の保健員を対象に研修が実施されています。

* 訳者注：職業研修チーム（VTT）とは、専門職業人のグループが海外に赴き、スキルや知識を学んだり、現地の専門職業人にスキルや知識を提供したりすることを目的とした、ロータリーのプログラムです。

2012年には、約60名の保健員が母子感染の防止と診断・治療のためのスキルのほか、より多くの保健員へとスキルを教える

ための方法を学びました。パワーポイント資料やコンピューターが活用され、HIV/エイズに関する最新情報が取められたUSBメモリも参加者に配布されました。地元ロータリー会員によると、参加者は学んだことを各々の診療所で活用し、妊婦のためのワークショップを実施しています。

途中、ロータリークラブから支給されたコンピューターが、一台を残してすべて盗まれるという災難が起きましたが、研修は大きな成果を上げました。研修前後に行われた医療知識テストでは、正答率が20%も上昇し、研修を完了した参加者には修了証が授与されました。また、より多くの女性が出産前ケアを受けられるようになり、妻に同伴して診療所を訪れる男性や、定期的に診療所を訪れるエイズ感染者の数も増えています。

なお、研修の計画段階では、医療団体「Global Strategies for HIV Prevention」創設者で、著名な小児免疫学者であるアーサー・アマン氏が加わりました。また、実施に当たっては、モンロビアのカトリック系病院とカリフォルニア大学サンフランシスコ校のHIV/エイズ研究機関とのパートナーシップが実現しました。

2012年の成功に続き、研修の対象地域を広げるため、クラブはさらに192,500ドルのグローバル補助金をロータリー財団から受理。昨年に起きたエボラの流行によって活動が停止しましたが、現在、活動は再開されつつあります。

研修にかかわったロータリー会員の一人は次のように述べます。

「興奮と感謝の気持ちでいっぱいです。これでHIVに感染している母親たちは、より質の高い医療を受け、健やかな子どもを生むことへの希望をもてるようになりました」



HIV/エイズに感染した妊婦への適切な治療方法を学ぶために、研修に参加した地元の保健員

ロータリーニュース

次回〈12月18日〉の卓話予定

テーマ 「健康素肌美」

(有)ビューティーエスイー 代表取締役 梅田 優子 様
(紹介者 西山 潔 会員)